

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

|           |   |   |     |    |     |                     |     |
|-----------|---|---|-----|----|-----|---------------------|-----|
| 指定期間      | ふりがな  | ふくおかけんりつくらてこうとうがっこう   |     |    |     | ②所在都道府県             | 福岡県 |
| 27～31     | ①学校名  | 福岡県立鞍手高等学校  |     |    |     |                     |     |
| ③対象学科名    | ④対象とする生徒数   |   |     |    |     | ⑤学校全体の規模            |     |
|           | 1年  | 2年  | 3年  | 4年 | 計   | 第1学年6クラス(240名)      |     |
| 普通科       | 160   | 160   | 152 |    | 472 | 第2学年6クラス(240名)      |     |
| 人間文科コース   | 40  | 40  | 37  |    | 117 | 第3学年6クラス(228名)計708名 |     |
| ⑥研究開発構想名  | 筑豊から世界へ！グローバルシティズンシップを持った「たくましき前進者」の育成  |   |     |    |     |                     |     |
| ⑦研究開発の概要  | <p>①「内向き志向」や自国家・自民族中心の思考を脱し、地球的な視野から地域の持続可能な発展に対して自覚と責任を持って行動するグローバルシティズンシップを持つ人材の育成に関するプログラム開発</p> <p>②能力の伸長を測る能力評価指標の作成に関する研究</p> <p>③大学と連携した課題研究の手法(鞍手FWメソッド)の開発</p> |   |     |    |     |                     |     |
| ⑧研究開発の内容等 | ⑧-1全体   | <p>(1) 目的・目標</p> <p>山積する筑豊の課題から目を背けることなく、同時に世界の諸課題にも関心を持ち、自覚と責任を持って課題を解決していこうとするグローバルシティズンシップを持った「たくましき前進者」たるリーダーを育成する。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>○【現状】筑豊地域は産業の衰退とともに、学力が県内の他地域と比較して低いことが大きな課題としてあげられる。特に英語に対する苦手意識が海外進出への壁となり、「内向き志向」に拍車をかけている。また、集団よりも個人を優先する姿勢、特定の人間のみコミュニケーションを取りがちな生徒に対して、いかに多様な交流の機会を確保するかが課題である。さらに、生徒の能力を把握する評価の主たる指標が、考査等の点数となっており、教員の授業改善、生徒の意欲向上に反映されていない。</p> <p>○【仮説1】筑豊地域の課題に関する研究およびアジア地域との相関的な研究を、大学及び企業等と協働して推進することによって、世界を視野に入れて行動できる人材を育成することができる。</p> <p>○【仮説2】課題研究や通常の授業に「協同学習」の形態を取り入れることにより、多様な場面で生徒の対話、協議、討論、相互評価の機会を確保し、コミュニケーション能力や表現力を向上することができる。</p> <p>○【仮説3】能力評価指標を作成し、生徒の能力の伸長を可視化することで、教員の生徒理解を深めるとともに、生徒自身が自己を客観的に把握し、行動指針を明確にすることができる。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>○「鞍手高校の主催する筑豊会議」を開催し、成果を地域・世界に発信する。</p> <p>○連携先や企業、学校等に広く参加を呼びかけ、公開型の課題研究発表会を実施する。</p> <p>○能力評価指標及び課題研究の手法をパッケージ化し、他校でも利用できるようにする。</p> <p>○地域の中学生・小学生を対象に「楽しいグローバル教室」を開き、成果を共有する。</p> <p>○英語によるホームページやSGH通信等で広く地域・世界に発信する。</p> |     |    |     |                     |     |
|           |   | <p>(1) 課題研究内容</p> <p>大テーマ「筑豊から世界へ！世界から筑豊へ！地域の持続可能な発展について」</p> <p>普通科の筑豊研究、人間文科コースのシンガポール・マレーシア研究を進め、校内・校外及び海外での協議の場を設定し、地域の持続可能な発展に関する戦略「～OCEAN～project」について検討し、地域・世界に発信する。</p>   |     |    |     |                     |     |

|              |   |
|--------------|---|
| ⑧-2<br>課題研究  | <p><b>(2)実施方法・検証評価</b></p> <p><b>ア 実施方法</b></p> <p>◎課題研究の実施の際には、手法として開発する「鞍手FWメソッド」を活用する。<br/>     〈1年次〉学校設定科目「現代社会探究」を設定し、筑豊及びシンガポール・マレーシアにおける地域課題に関する研究を行う。</p> <p>①大学と連携した課題に関する班別活動（1班5人のグループ研究）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*人口問題研究班「筑豊の人口と少子高齢化の現状」－福岡県立大</li> <li>*資源エネルギー問題研究班「資源エネルギー問題の現状とこれから」－東北大</li> <li>*労働問題研究班「筑豊の労働問題」－福岡女子大</li> <li>*地域活性化研究班「筑豊の魅力について考える」－北九州市立大</li> </ul> <p>②「世界の動向と地域の持続可能な開発」について（全体）－九州大学</p> <p>③「シンガポール・マレーシアの現状」（人文コースのみ）－北九州市立大</p> <p>④各地域の現状について（全体）－自治体職員等</p> <p>⑤トヨタの考える地域貢献（全体）－トヨタ自動車九州</p> <p>〈2年次〉「課題研究Ⅰ」1年次の研究をグローバルテーマに深化させ、校内・校外・海外で協議する。普通科→「筑豊を世界へ」 人間文科コース→「世界から筑豊へ（マレーシア・シンガポールについて）」</p> <p>①論文作成 3月完成（1年次の課題認識をもとにグローバルな視点で考察する。）</p> <p>②京都研修 8月－京都大学 CIAS（人文コース及び普通科選抜50名）</p> <p>③シンガポール・マレーシア海外研修 12月（人文コース及び普通科選抜50名）</p> <p>④校内研究発表・協議「世界に打って出る筑豊！Operation for Chikuhou Empowerment with Asian Nations」 3月（全体※理数科も含む）</p> <p>〈3年次〉「課題研究Ⅱ」地域・世界に対して成果を広く発信する。</p> <p>①「鞍手高校の主催する筑豊会議」の実施 7月－これまでの課題研究を英語の論文と地域への提言にまとめて発信、協議する。－有識者等を含めたパネルディスカッション</p> <p>②イギリス海外研修－3年間の課題研究の成果が十分に認められる生徒10名程度を選抜し、北九州市立大学の協力のもと、イギリス「フットパス」研修に参加する。</p> <p>③国際交流事業や宮若市・トヨタ自動車九州連携によるカナダ研修等、国際的な場において成果を発信する。</p> <p><b>イ 検証評価</b></p> <p>①研究開発した能力評価指標による評価及び能力の伸長の可視化（検証→改善）</p> <p>②SGH運営指導委員による評価</p> <p><b>(1) 必要となる教育課程の特例等</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生の普通科において、現代社会2単位と総合的な学習の時間1単位を合わせて学校設定科目「現代社会探究」（3単位）とする。</li> <li>・1年生の普通科人間文科コースにおいて、現代社会3単位と総合的な学習の時間1単位と合わせて、学校設定科目「現代社会探究」（4単位）とする。</li> </ul> |
|              | ⑧-3<br>上記以外   |
| ⑨その他<br>特記事項 | なし  |

|      |                     |      |       |
|------|---------------------|------|-------|
| ふりがな | ふくおかけんりつくらてこうとうがっこう | 指定期間 | 27～31 |
| 学校名  | 福岡県立鞍手高等学校          |      |       |

## 平成27年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

| 1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）                              |            | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 目標値(31年度) |
|---|------------|------|------|------|------|------|------|------|-----------|
| 自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数                                 |            |      |      |      |      |      |      |      |           |
| a   | SGH対象生徒:   |      |      | 人    | 人    | 人    | 人    | 人    | 500人      |
|   | SGH対象生徒以外: | 人    | 210人 | 人    | 人    | 人    | 人    | 人    | 人         |
| 目標設定の考え方: 生徒の約7割が自らの意志で社会貢献活動等に携わる人数                      |            |      |      |      |      |      |      |      |           |
| 自主的に留学又は海外研修に行く生徒数  |            |      |      |      |      |      |      |      |           |
| b   | SGH対象生徒:   |      |      | 人    | 人    | 人    | 人    | 人    | 10人       |
|   | SGH対象生徒以外: | 0人   | 0人   | 人    | 人    | 人    | 人    | 人    | 人         |
| 目標設定の考え方: 海外の学術機関への短期長期研修プログラムに参加する人数(人間文科コースの生徒は除く)      |            |      |      |      |      |      |      |      |           |
| 将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合                             |            |      |      |      |      |      |      |      |           |
| c   | SGH対象生徒:   |      |      | %    | %    | %    | %    | %    | 70%       |
|   | SGH対象生徒以外: | %    | 38%  | %    | %    | %    | %    | %    | %         |
| 目標設定の考え方: 学年末のアンケートで、卒業後に留学したり、海外での就職を視野に入れている人数          |            |      |      |      |      |      |      |      |           |
| 公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数 |            |      |      |      |      |      |      |      |           |
| d   | SGH対象生徒:   |      |      | 人    | 人    | 人    | 人    | 人    | 5人        |
|   | SGH対象生徒以外: | 人    | 0人   | 人    | 人    | 人    | 人    | 人    | 人         |
| 目標設定の考え方: 外国語技能、異文化理解あるいは国際的課題解決への考察が公的機関より表彰される人数        |            |      |      |      |      |      |      |      |           |
| 卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合               |            |      |      |      |      |      |      |      |           |
| e   | SGH対象生徒:   |      |      | %    | %    | %    | %    | %    | 60%       |
|   | SGH対象生徒以外: | %    | 36%  | %    | %    | %    | %    | %    | %         |
| 目標設定の考え方: 英検準2級以上(あるいはGTECで500点以上)を取得している人数               |            |      |      |      |      |      |      |      |           |
| (その他本構想における取組の達成目標)                                       |            |      |      |      |      |      |      |      |           |
| f   | SGH対象生徒:   |      |      |      |      |      |      |      |           |
|   | SGH対象生徒以外: |      |      |      |      |      |      |      |           |
| 目標設定の考え方:   |            |      |      |      |      |      |      |      |           |

| 1' 指定4年目以降に検証する成果目標   |            |      |      |      |      |      |      |           |
|---|------------|------|------|------|------|------|------|-----------|
|   | 25年度       | 26年度 | 30年度 | 31年度 | 32年度 | 33年度 | 34年度 | 目標値(34年度) |
| 国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合   |            |      |      |      |      |      |      |           |
| a   | SGH対象生徒:   |      | %    | %    | %    | %    | %    | 30%       |
|   | SGH対象生徒以外: |      | %    | 16%  | %    | %    | %    | %         |
| 目標設定の考え方: 文部科学省より支援を受ける事業を展開している大学及びグローバル教育を実践している大学に進学する人数     |            |      |      |      |      |      |      |           |
| 海外大学へ進学する生徒の人数  |            |      |      |      |      |      |      |           |
| b   | SGH対象生徒:   |      | 人    | 人    | 人    | 人    | 人    | 3人        |
|   | SGH対象生徒以外: |      | 人    | 0人   | 人    | 人    | 人    | 人         |
| 目標設定の考え方: 生徒が卒業後の進路の選択肢として海外の大学への進学も考慮に入れることのできる体制を整備する。        |            |      |      |      |      |      |      |           |
| SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合                                |            |      |      |      |      |      |      |           |
| c   | SGH対象生徒:   |      | %    | %    | %    | %    | %    | 80%       |
|   | SGH対象生徒以外: |      | -    | -    | %    | %    | %    | %         |
| 目標設定の考え方: 卒業時にアンケートをとり、課題研究が学部選択等に与えた影響を検証する。                   |            |      |      |      |      |      |      |           |
| 大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数  |            |      |      |      |      |      |      |           |
| d   | SGH対象生徒:   |      | 人    | 人    | 人    | 人    | 人    | 50人       |
|   | SGH対象生徒以外: |      | -    | -    | 人    | 人    | 人    | 人         |
| 目標設定の考え方: 現状でも多くの卒業生が大学在学中に海外研修に参加している。この事業の成果としてより多くの人数が期待される。 |            |      |      |      |      |      |      |           |

| 2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット） |  |      |      |      |      |      |      |           |
|--------------------------------------|--|------|------|------|------|------|------|-----------|
|                                      | 25年度   | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 目標値(31年度) |
| a                                    | 課題研究に関する国外の研修参加者数                                  |      |      |      |      |      |      |           |
|                                      | 人  | 0人   | 人    | 人    | 人    | 人    | 人    | 50人       |
|                                      | 目標設定の考え方: 課題研究のために海外で実地調査や発表を行う生徒の人数               |      |      |      |      |      |      |           |
| b                                    | 課題研究に関する国内の研修参加者数                                  |      |      |      |      |      |      |           |
|                                      | 人  | 0人   | 人    | 人    | 人    | 人    | 人    | 50人       |
|                                      | 目標設定の考え方: 課題研究のために国内で実地調査や発表を行う生徒の人数               |      |      |      |      |      |      |           |
| c                                    | 課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数                            |      |      |      |      |      |      |           |
|                                      | 校  | 0校   | 校    | 校    | 校    | 校    | 校    | 2校        |
|                                      | 目標設定の考え方: マレーシアの高校や大学と課題研究に関する連携を行うことができるよう準備する。   |      |      |      |      |      |      |           |
| d                                    | 課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)             |      |      |      |      |      |      |           |
|                                      | 人  | 40人  | 人    | 人    | 人    | 人    | 人    | 100人      |
|                                      | 大学教授7名×2回、他校の生徒約40名×2回                             |      |      |      |      |      |      |           |
| e                                    | 課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)             |      |      |      |      |      |      |           |
|                                      | 人  | 0人   | 人    | 人    | 人    | 人    | 人    | 20人       |
|                                      | 目標設定の考え方: 企業2名×2回、自治体6名×2回                         |      |      |      |      |      |      |           |
| f                                    | グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数           |      |      |      |      |      |      |           |
|                                      | 人  | 0人   | 人    | 人    | 人    | 人    | 人    | 50人       |
|                                      | 目標設定の考え方: 地域の自治体が主催する公益性の高いコンテスト等に参加する人数           |      |      |      |      |      |      |           |
| g                                    | 帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)                            |      |      |      |      |      |      |           |
|                                      | 人  | 0人   | 人    | 人    | 人    | 人    | 人    | 3人        |
|                                      | 目標設定の考え方: 姉妹校提携を目指し、体制を整え積極的に受け入れる。                |      |      |      |      |      |      |           |
| h                                    | 先進校としての研究発表回数                                      |      |      |      |      |      |      |           |
|                                      | 回  | 0回   | 回    | 回    | 回    | 回    | 回    | 6回        |
|                                      | 目標設定の考え方: 課題研究発表を中心に、対象を地域・保護者・他校の学生等にも広げ、発表会を行う。  |      |      |      |      |      |      |           |
| i                                    | 外国語によるホームページの整備状況<br>○整備されている △一部整備されている ×整備されていない |      |      |      |      |      |      |           |
|                                      |  | ×    |      |      |      |      |      | ○         |
|                                      | 目標設定の考え方: 三年後の創立100周年記念事業の一環として着手し整備を目指す。          |      |      |      |      |      |      |           |
| j                                    | (その他本構想における取組の具体的指標)                               |      |      |      |      |      |      |           |
|                                      |  |      |      |      |      |      |      |           |
|                                      | 目標設定の考え方:  |      |      |      |      |      |      |           |

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

|           | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|
| 全校生徒数(人)  | 747  | 730  | 0    | 0    | 0    | 0    | 0    |
| SGH対象生徒数  |      |      |      |      |      |      |      |
| SGH対象外生徒数 |      |      |      |      |      |      |      |